

公共ライドシェアドライバーの活動実態と継続要因に関する研究

交通まちづくり学研究室2025年度卒業研究 伊藤直輝

研究の背景・目的

- 高齢者の身体機能の低下や免許返納者等の増加
- 不採算路線からの公共交通の縮小・撤退による交通空白地の拡大
- 地域公共交通の担い手不足



生活行動が制限される**交通弱者の移動手段確保**が必要

→ 地域公共交通網を補完する交通手段

地域住民ボランティア等による自家用車を用いた輸送サービス

➤ **公共ライドシェア（自家用有償旅客運送）**



確保されるべき交通手段の一種

地域住民が主体となる

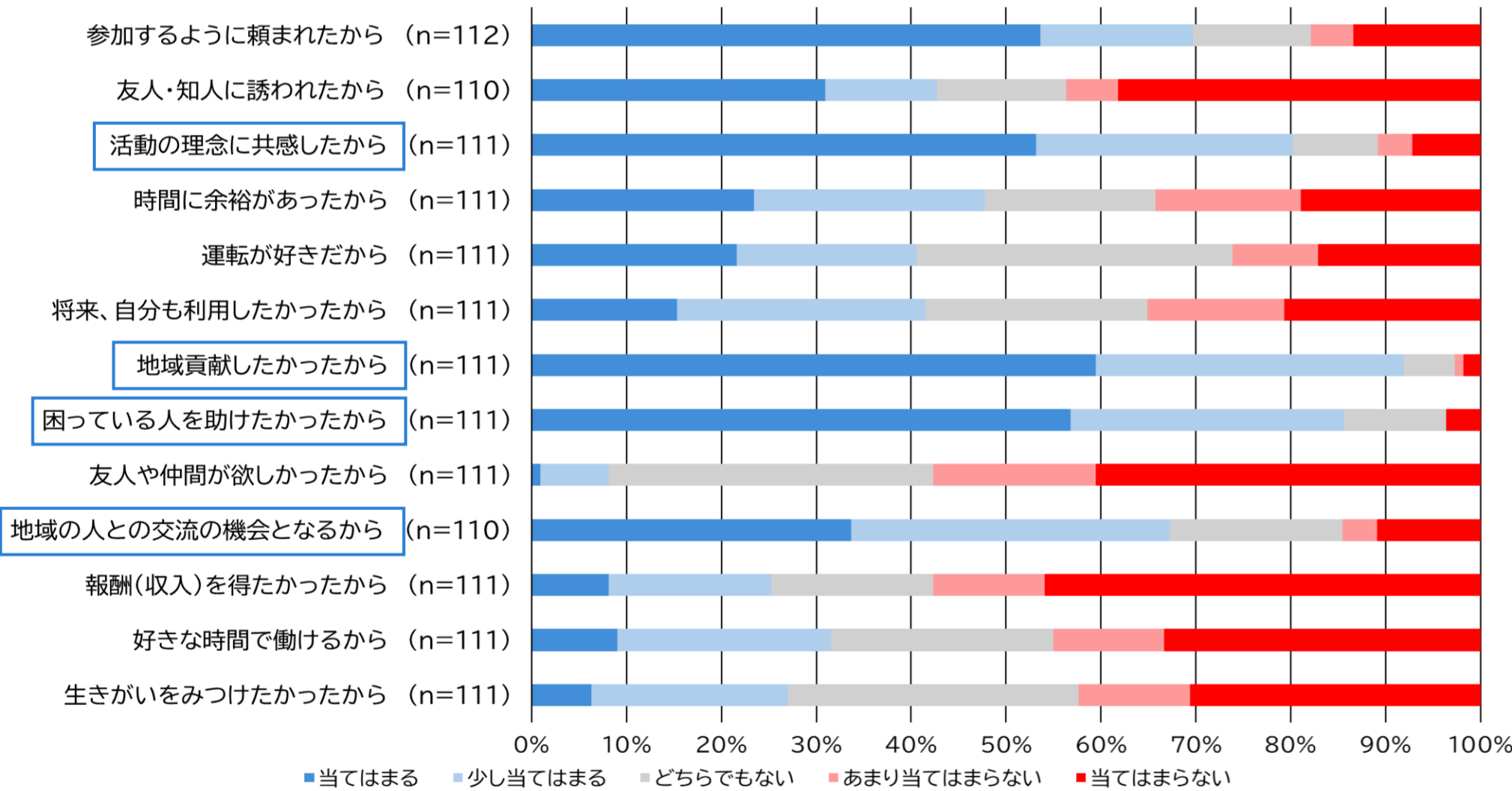
ドライバーの確保・継続が必要不可欠

地域内の新たな役割
新たな人間関係を生み出す場

目的

- 公共ライドシェアドライバーの意識に着目し、ドライバーの**参加動機・負担・継続要因**について明らかにすること
- ライドシェア活動によって得られる**副次的な効果**が、ドライバーの**主観的幸福感**にどのような影響を及ぼすのか明らかにすること

ドライバーを始めた動機



利他的動機・交流動機の割合が高い

ドライバーの継続意向に影響を与える要因分析

<継続意向に関する二項ロジスティック回帰分析>

継続意向

低 ← 高

説明変数	偏回帰係数	標準偏回帰係数	オッズ比	P値	判定
個人属性					
65歳未満ダミー	2.1531	1.0579	8.6114	0.0109	*
地域貢献したかったからダミー	2.9725	0.7785	19.5405	0.0315	*
ドライバー仲間同士の交流があるダミー	2.3918	1.1941	10.9336	0.0072	**
活動を通じて生きがいを感じるダミー	2.0150	0.9779	7.5008	0.0072	**
夜間の運転が心配ダミー	-2.6108	-1.1012	0.0735	0.0049	**
後継ドライバーがないダミー	-2.5566	-1.2515	0.0776	0.0079	**
地域への態度					
シビックプライド高いダミー	1.6261	0.7810	5.0840	0.0211	*
定数項	-2.3581	-	0.0946	0.0619	
決定係数	R ² 乗	Cox-Snell	Nagelkerke		
	0.4869	0.4030	0.6168		
判別率		88.89%			
回帰式の有意性		P < 0.001			

継続意向高い

- 65歳未満
- 地域貢献したかったから
- ドライバー仲間同士の交流
- 活動を通じて生きがいを感じる
- シビックプライド高い

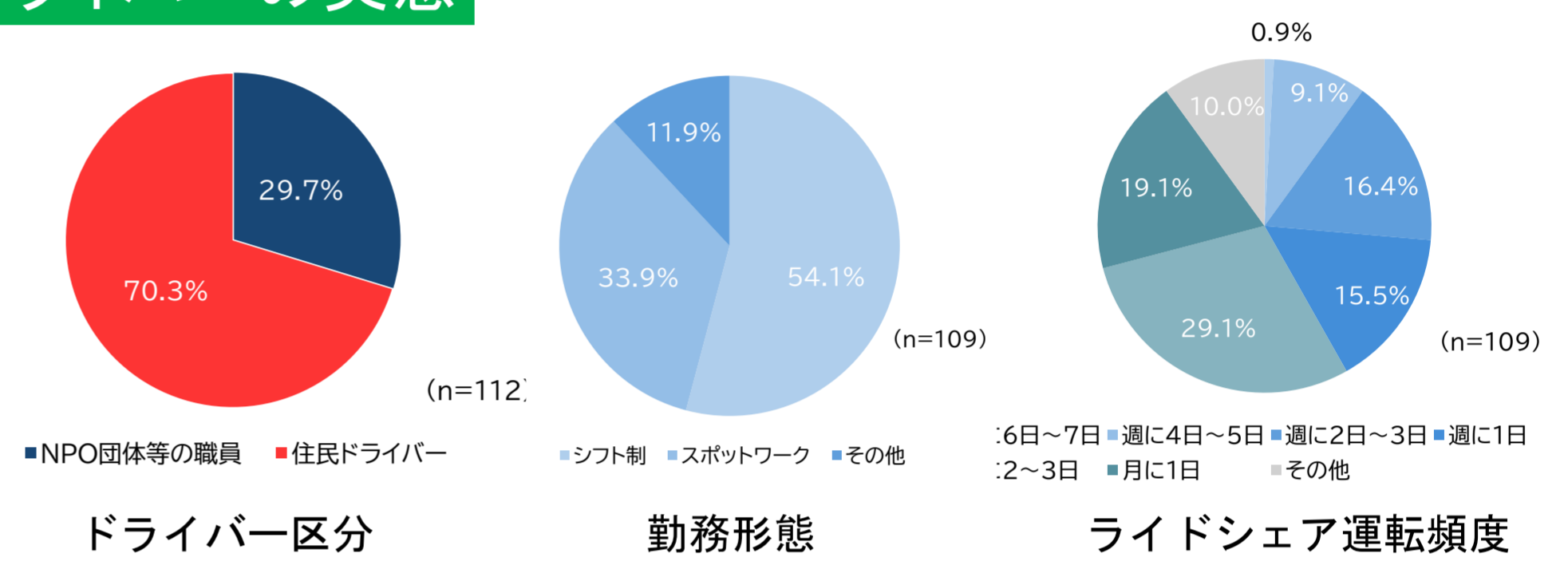
継続意向低い

- 夜間の運転が心配
- 後継ドライバーがない

調査の概要

調査名	公共ライドシェアドライバーに関する調査
調査対象	中国・四国地方の公共ライドシェアのドライバー
調査時期	2025年12月12日から 2026年1月16日まで
有効回答数	112部
調査方法	中国・四国地方の自治体やNPO団体に 電話で調査対象を選出・協力依頼
主な調査内容	<ul style="list-style-type: none"> 個人属性 ドライバーを始めた動機 ドライバー活動評価 今後の継続意向 主観的幸福感

ドライバーの実態



- NPO団体等の職員よりも住民ドライバーの割合が高い
- 勤務形態についてシフト制割合が高い
- ライドシェア運転頻度について週1日以上割合が約4割、週1日未満の割合が約5割

ドライバーの主観的幸福感に影響を与える要因分析

<主観的幸福感に関する順序ロジスティック回帰分析>

得点低 ← 得点高

説明変数	説明変数	偏回帰係数	オッズ比	P値
ライドシェア項目	利用者の笑顔を見ると、自分も元気になるダミー	0.8728	2.3936	0.1981
	活動時間が調整しやすく、自分のペースで活動できているダミー	-0.1098	0.8961	0.8226
	地域に必要とされていると感じるダミー	0.9681	2.6329	0.0828
	主体性が向上したダミー	0.8914	2.4385	0.0967
生活満足度	自分の健康状態ダミー	0.7797	2.1808	0.0971
	自分の経済的な余裕ダミー	1.4688	4.3442	0.0019
	知人・友人との交流のしやすさダミー	0.4639	1.5903	0.2774
地域への態度	定住意向ダミー	1.9333	6.9124	0.0177
定数項	主観的幸福感=1	-3.8710	0.0208	P < 0.001
	主観的幸福感=2	-5.5912	0.0037	P < 0.001
決定係数		Cox-Snell	Nagelkerke	McFadden
		0.3968	0.4472	0.2316
回帰式の有意性		P < 0.001		
判別率		58.33%		

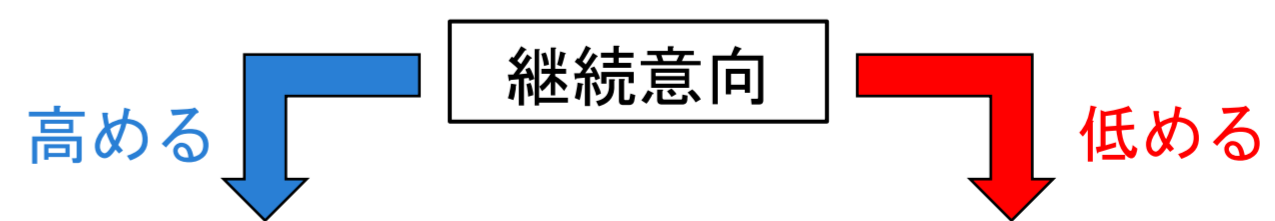
ドライバーの主観的幸福感への影響

大 ← 小

定住意向 > 経済的な余裕 > 地域に必要とされていると感じる > 主体性が向上 > 健康状態

まとめ

- ドライバーを始めた動機：**利他的動機・交流動機**の割合が高い



- 65歳未満
- 地域貢献したかったから
- ドライバー仲間同士の交流
- 活動を通じて生きがいを感じる
- シビックプライド高い

- 夜間の運転が心配
- 後継ドライバーがない

主観的幸福感への影響

定住意向 > 経済的な余裕 > 地域に必要とされていると感じる > 主体性が向上 > 健康状態

ドライバー活動がドライバーの主観的幸福感向上に寄与する可能性